



「読み聞かせ～絵本を通じた子育て～」

親子のふれあいの時間をつなぐ絵本。

本を読む声に反応して、赤ちゃんは穏やかな表情を浮かべます。

赤ちゃんが幸せを感じる時間は、親にとっても心安らぐ子育ての時間。

絵本は、親と子が心を通いあわせ、『きずな』を深める心の広場です。

皆さんも『きずな』を深めるため、本を開いてみませんか？



絵本は、“役に立つ”“ためになる”ものではなく、“楽しみ”そのものです。

一冊の絵本が子どもに与える楽しみと喜びが大きいほど、その中味は深く心に残り、子どもが本を好きになる原動力となります。

絵本は、子どもに読ませる本ではなく、“大人が子どもに読んであげる本”です。

親と子の絆が問題になっている現代の家庭では、家族ができるだけ多くの時間をともにすることが、子どもに大きな心のよりどころを与えます。

絵本を開いて優しく話しかけてもらうのは、赤ちゃんの成長にとってとても大切な時間。愛情に満ちた「ことば」を語りかけることで、子どもたちはとても大切にされ、愛されていることを知り、喜びを感じます。

子どもが好きな絵本は、繰り返し読んであげること、それが読書への大切な入口です。

読書とは、ただ字を読むことではなく、本の中の世界へ入り込み、夢中になって楽しむことです。

語りかけを難しく考えないでください。絵本にかいてあることをそのまま読んであげればよいのです。

絵本は“読みっぱなし”で、無理に理解させる必要はありません。

絵本を読み終えた後、あれこれと質問をしたりして、無理にわからせようとししないでください。

もちろん子どもの方から語りかけてきたり、質問をしてきた場合は喜んで話し合いたいものです。

何より、一冊の本を読み終えた時の喜びや満足感を大切にしてください。

城里町では、平成22年6月から、『ブックスタート』がはじまりました。

1歳児歯科健診の会場で、城里町母子愛育会のみなさんが絵本をお渡ししています。

対象となる方には、健診のご案内と一緒にブックスタートに関するお手紙を送付しています。



ブックスタートとは？

ブックスタートは、親と子が一緒に本に触れる機会を促進させようと、1992年にイギリスで始まりました。

日本には2000年に紹介され、2001年4月に12市町村が実施。乳児健診の際などに読み聞かせを行ったり、絵本を手渡す活動が全国各地に広がっています。

問合せ 健康福祉課（城里町常北保健福祉センター内）保健師まで

☎029 - 240 - 6550（直通）☎029 - 288 - 3111（代表）

今回の「まごころ通信」は1月号に掲載予定です。